

石田貴志さんとの 出会い

石田貴志さんとボクが出会ったのは今から3年前の6月頃、所属していた大阪青年会議所(以後JCと書きますね)での出会いでした。JCは40歳で卒業なので2012年がボクの最終年度、所属する委員会に新人として入会されたのが石田社長でした。石田社長に初めて会った瞬間の事は今でも鮮明に覚えています。8月に大阪で毎年行われる淀川花火大会と言うのがあるのですが、この花火大会の運営にJCでは関わっていて協賛金を集めたり会場の警備をしたりそんなお手伝いをしているんです。その日は地元十三の商店街を回って協賛金を集める日でした。JCには毎年4月に新人さんが入会されるのですが、石田社長は少し遅れての6月入会、なのでその日が石田社長と初対面で、ご挨拶した瞬間の第一印象は「濃い顔した人やなー南方系?」でした(笑)。初対面でさすがにそんな事は言えなかったのですが、後から聞いてみると家系が奄美大島と聞き、やっぱりそうかとすごく納得しましたね(笑)。協賛金の話に戻しましょうか、十三の商店街の人って2つに分かれるんです。花火をする事で人通りが増えて商売にいい影響が出る人は協賛金を出してくれるのですが、駅の反対側とかであま

り良い影響が無い人ってあまり協力的ではないんです(気持ちは分かりますが...)。でも沢山協賛金を集めないといけないのでそんな店主の所にも行かないといけないのですがこれが結構辛い...毎年JCのメンバーが「協賛金下さい」と回ってくるので「又来たか?帰って!」と門前払いされる事も多く、行くのも結構及び腰になる。しかもJCメンバーってそれなりの会社の経営者が多いから、門前払いされる事に慣れていないから余計に辛いです。でも色々な感情はあるにせよキッチンと一軒一軒お店を回っている石田社長の姿がそこに有りました。やるべき事をすごくコツコツとやる人なんだなと言るのがボクの第一印象、そしてその印象は今でも変わる事ありません。

石田エンジニアリング 株式会社の紹介

ここで少し会社の紹介をさせて頂きますね、石田社長が経営されているのは大阪市福島区に本社を置く300名以上の社員を抱える昭和15年1月創業の石田エンジニアリング株式会社です。営業所は北海道から九州まで全国にあり、主にエレベーターと立体駐車場の設置やメンテナンスといった事業展開をされています。

最初からその事業で創業されたわけ



左上) 大阪万博の際、三菱館で実際に使われていたエレベーター。石田さんで据付、リニューアル工事を担当し、今でもこの様に現役に働いています。
左下) 創業70周年で社長に就任された際の記念品。

ではなく、プレス加工並びにアルミニウム家庭金物の生産といった事業で石田社長の曾祖父が創業され、創業の地が非常に近い松下電器松下幸之助さんとも親交があった様です。時代の変化と共に事業が変化し、昭和31年からエレベーター関連、昭和50年から立体駐車場関連の事業が始まり今に至ります。やはり長く続く会社とというのはどんな変化をしていくものなんですかね。

石田社長からの スーツお仕立ての依頼

2012年の9月頃石田社長から「スーツを作って欲しい」そんな依頼がありました。どうしてボクに頼んでくれたんですか?と聞くと「今までずっと作ってくれていたおじいちゃんテーラーが引退してしまっただから」と言う事でした。確かにこのスーツ業界では手の良い職人さんがどんどん引退して物作りの危機と言っても良い状況なんです、この話をしだすと長くなるので石田社長のスーツのお話に戻しますね!ボクはスーツを作らせて頂く時に色々な質問をします。

何故今の仕事をしているのですか?